

令和2年度 瑞浪市第1層協議体 高齢者生活支援検討会議 会議録

- 会議の日時：令和2年11月26日（木） 13時30分から15時30分まで
- 場所：瑞浪市役所 西分庁舎1階 会議室
- 出席者：成瀬和子 加藤佐紀 安藤昇 木村聖可 熊澤清和 永治昌代 前川新吾  
三輪晃治郎 岩島夕夏 片桐千絵 浅川信之 中村佐記子（代理出席）  
加藤聖二 成瀬良美
- 欠席者：藤田敏明 佐藤好弘
- 事務局：豊崎忍 小木曾友美 鎌原大治

■ 議事：

1. 開会

2. 民生部次長挨拶

この会議は、事業の審議や評価を行うものではなく、高齢者支援について、情報共有の場としてとらえていただき、瑞浪市はいったい今どんな状態か、何に困っており、支援はどのようなものが考えられるかなどについて、意見交換をしますので、率直にご発言いただきたい。

3. 委員の紹介

4. 委員長及び副委員長の選出

委員長 熊澤清和

副委員長 浅川信之

5. 委員長あいさつ

6. 議題

- 1) 生活支援体制整備事業について
- 2) 生活支援コーディネーターの活動報告
- 3) 高齢者の日常生活等の状況・課題（意見交換）

【各委員より】

成瀬（和）委員

陶町は若い方が少ない。また、体力が落ちて、要介護度が重くなってから家族が支援を求めてこられることが多い。元気なうちから施設を利用していただけると良い。

介護施設を「嫌だな」と思われないようにしていきたい。

加藤（佐）委員

みずなみ瀬戸の里で相談員をしている。入所施設のみであるため、地域の方への支援にはまだまだ至らない。この会議により、地域の実情を把握して、私たち社会福祉法人ができることは何かを勉強したい。

当施設の職員で介護休暇を取得している方で、家族が要介護認定に認定されるまでの状態では無いが、認知症があり、地域に出ていくことができずにいる。地域に出かけていくことができれば、職員の負担も軽減されるのでは。

安藤（昇）委員

ボランティア連絡協議会から出席している。ボランティア自体の高齢化、それからコロナの影響で、「怖い」ということで出掛けられないというのが減少の原因になっている。図書館のボランティアを行っているが、ボランティアの中でも「外に出るのが怖いから活動をやめます」という方がいる。

木村委員

釜戸町大湫町の民生委員をしている。民生委員を始めてもうすぐ8年目に入るところ。ある独居高齢者の支援において、毎月訪問していて、その方には「デイサービスに行く

と良い」とずっと言い続けていた。あるとき、急に容姿の乱れが見られるようになり、移動スーパーの方や向かいの工場の方も「この頃おかしい」と感じていた。その後、地域包括支援センターに相談したところ、すぐに病院やご家族に連絡してくださり、これまでなかなか進まなかった支援が、ケアマネジャーが付き、デイサービスの利用に繋がりと、その後、体力も付いて、配食サービスの利用も開始できた。いろいろな方が繋いでくれた。何年もかけても、デイサービス利用に至らなかったのに、皆さんの協力や気付きによって繋がっていったことが嬉しかった。

また、別の高齢者の話で、夜電話がかかってきて「自宅を傷つけられた」と言われた。自宅に伺うと何年も前からある柱の傷であった。「毎日、泥棒が入ってくる」とも言う。今現在もこのような状態である。この件も地域包括支援センターに繋いで、桜寿荘に通うようになった。

「ある日、急に起こる変化」に気付いていかなければならないと思っている。

#### 永治委員

主に在宅サービスを行っている。

ある独居高齢男性で認知症もあり、食べることもままならない方。ヘルパーが入ることで食事も摂れ、お風呂も入れるようになった。

もう一例、聴覚障がいのある方で、なかなかコミュニケーションが取れない。筆談をしているが、事前にヘルパーに伝言メモを持たせて、調理において「味が濃い」「不味い」とかに使用している。

#### 三輪委員

移動スーパーの会社を営んでいる。改造した冷蔵庫を積んだ軽トラックを走らせていて、各ご家庭や地域に食品を中心に販売している。

現在、会社全体で6台の販売車があるが、瑞浪市内では、北は日吉町から南は陶町まで3台の車両で販売を行っている。

日吉町や陶町において、玄関の前まで伺いますので喜んでいただいている。今日、ご出席の方は介護などの関係者が多いが、私どもは「生活を支える」というよりも「喜んでいただく、楽しみを与える」ことができたかと思っている。買い物は身近な喜び。80歳ぐらいの利用者が多く、大半が女性。若い世代は「旅行に行く」などが喜びであるが、家から出ることすら困難な方も居る。週に1回や2回、各家庭に足を運びますので、少しでも力になればかと思っている。

民間であるため、100%お受けできない。スケジュール上、お断りしなければならない場合もあるが、努力していきたい。

#### 前川委員

瑞浪で中日新聞の販売をしている。新聞販売店として、お客さんと接する機会はあまり多くない。配達中に新聞が取り込んでいないと、独居老人の場合、何か問題が起きている可能性があるということで、平成27年に瑞浪市と高齢者見守り協定を締結した。

ただ、お客さんによっては1～2日ぐらい家を空けることは何とも思っていないで、新聞がそのままになっているわけですが、実は留守というケースもあるため、昨日の新聞が取り込んでいないからといって、すぐに連絡するのは難しい。

中日新聞の販売店として、独居老人に限らず、お客さんと直接、約束事を交わしているものもある。老人世帯で自宅の問題があったときに、子や親戚に連絡をするという約束事を交わしている。その場合は、1日でも取り込んでいない場合は連絡するというサービスを行っている。そういった約束事を交わしていないお客さんについては、1日取り込んでいなくても連絡することはできない。

先日、3日ぐらい新聞がたまっているという連絡を受けて、夕刊のときに見に行ったら亡くなっていたというケースがあったので、3日というのが良いのか悪いのか難し

いが、なるべく早めに連絡を受けて、タイミングを見計らって連絡できるような体制に変えていかなくてはいけないと感じた。従業員にもう少し心配りをしてもらい見守っていただけると思っている。

#### 中村委員（代理）

今日は安藤の代理で出席している。地域包括支援センターは昨年10月から委託を受けて運営している。介護や権利擁護などの相談を受けている。看護師、社会福祉士、主任ケアマネがチームを組んで対応している。

最近、「シルバー人材センターで働いている方が、シルバーの業務についていけなくなりつつある」という相談を受けた。「その方に誰か付いていないと仕事にならない」というような状態。その方にとっては、シルバー人材センターが居場所や生きがいになっているため、排除ということはできない。シルバーに代わる居場所があると良いと考えている。

#### 加藤（聖）委員

様々な相談を受けている。相談を受けたら、繋げられる機関に繋いでいく。そういった問題が蓄積されていくと、生活支援コーディネーターに瑞浪市における問題提起ができる。

高齢者の足の問題、買い物の問題を抱えている方が多い。移動販売の方やシルバーさんが関わることになるが、そういった方のコーディネートを生活支援コーディネーターと共に考えていきたい。

#### 熊澤委員長

本日の会議でのご意見、高齢者が地域で安心して暮らしていけるような、必要なサービス等について、情報を共有しながら資源開発が推進されればと思う。委員の皆さまには、それぞれの立場から様々な情報が入ると思いますが、こういった会議で、どういったふうに改善するか話し合い、皆で問題を共有しながら解決していくことが大切である。

#### 7. その他

支え合い・助け合いの地域づくりの進め方学習会について

#### 8. 閉会